

10. 令和4年度千葉県てんかん地域診療連携体制整備事業活動報告

千葉県循環器病センター 脳神経外科 青柳 京子

まとめ

令和4年度も千葉県循環器病センターは千葉県てんかん支援拠点病院に指定され、てんかん地域診療連携体制整備事業活動は3年目を迎えた。COVID-19感染拡大に伴い前年度にも増して診療・施設訪問の制限が加わったが、集会に関する制限の緩和を受けハイブリッド開催での市民公開講座開催を通しての啓蒙活動や、症例検討会への参加者数・参加施設数の増加、外来患者数や手術件数の増加など、昨年度を上回る実績を上げることであった。

1. 診療に関する事業

1) 実績（別紙「令和4年度てんかん支援拠点病院の指標について」参照）

令和3年度はCOVID-19感染拡大を受け不要不急の診療の延期、患者家族の付き添いの禁止が求められ、さらに令和3年8月以降断続的にCOVID-19対応のための千葉県の臨時医療施設へのスタッフの派遣のために脳神経系病棟の閉鎖や入院制限されたため、付き添いの必要な長時間脳波ビデオ同時記録検査をはじめとする検査目的の入院に大幅な制限が生じ、のべ入院患者数、新規入院患者数、てんかん手術件数、長期脳波ビデオ同時記録件数ともに目標値を下回っていたが、今年度は、PCR検査確認後の家族の付き添いを許可する等、感染対策とてんかん診療の両立への取り組みを行い、各指標ともに昨年度同時期実績を超越、目標値を上回る見込みである。

2) 診療連携に向けての取り組み

今年度も引き続き二次医療圏の中核病院への訪問・電話連絡・研究会開催などにより、千葉県のてんかん診療連携の構想について情報を提供した。また、コーディネーターが地域包括ケア実務者会議、中核地域生活支援センター会議、地域包括ケアシステム構築推進事業研修、精神病院長会議への参加や施設訪問（保健センターなどの公的機関4施設、特別支援学校5施設）を通して昨年同様顔の見える関係を構築すると共に、各施設の実態や拠点機関に求められている役割についての情報収集を行った。さらに、千葉県移行期医療支援体制整備事業の連絡協議会へもコーディネーターが参加した。厚生労働省は小児慢性特定疾病児童成人移行期医療支援モデル事業を立ち上げ、移行期医療体制を推進している。小児期発症のてんかん患者も移行期医療対象であるが、実際に受け入れ先等にも難渋するケースもあり、今後、てんかん診療拠点病院としてスムーズに医療を受け入れる体制づくりを移行期支援センターと協働していく契機となった。

3) 多職種・多施設によるてんかん症例検討会開催

平成 30 年のてんかんセンター設置以来、院内の多職種（脳神経外科医・精神科医・脳神経内科医・看護師（看護局・病棟・外来・手術室）・薬剤師・栄養士・社会福祉士・言語聴覚士・理学療法士・放射線技師・臨床検査技師・事務局）による症例検討会を開催し、診断・治療のみならず、家族背景への配慮や社会福祉資源の活用も含めた検討を重ねてきた。令和 2 年度より Zoom を用いたオンラインカンファレンスを導入し、千葉大学脳神経外科・小児科・脳神経内科・生理検査技師、浅井病院精神科、木更津病院精神科、東邦大学医療センター佐倉病院小児科、国際医療福祉大学成田病院脳神経内科、行徳総合病院から参加登録をいただき、各症例についてより活発な議論がなされた。

4) 外来医師派遣・オンライン診療導入

てんかんは有病率の高い疾患であるにもかかわらず専門医療へのアクセスが困難であることが課題となっている。一般の脳外科医・神経内科医・精神科医で診断・治療に難渋する症例は当院への紹介を勧めているが、当院の交通アクセスが不良であることから患者が受診を希望しないという現状もある。このため、これまでの千葉大学医学部附属病院に加え、令和 3 年 1 月より済生会習志野病院への医師派遣を開始し、てんかん専門外来を開設した。

同様に遠方からの通院患者に対しオンライン診療を用いて頻繁に外来受診を行うことで、服薬コンプライアンスの向上と適切な薬剤コントロールを図るべく、令和 3 年 4 月よりオンライン診療システムを導入した。今後、遠隔連携診療料の対象となる医療機関同士の連携体制の構築も計画している。

2. 教育・啓発活動に関する事業

1) ホームページ開設

令和 2 年 4 月に病院ホームページ内に脳神経外科から独立しててんかんセンターのホームページを開設し、てんかんセンター、てんかんの診断や治療についての情報を掲載した。下記 3) のパンフレットの PDF 掲載や研修会案内を適宜アップロードしたところ、アクセス数が増加した。また、患者・患者家族が自身でホームページの情報を検索し、専門診療問い合わせや新規外来紹介受診につながる例も多数みられ、外来患者数の増加に寄与した。

2) 研修会・公開講座開催

今年度 4 回の研修のうち 10 月開催の市民公開講座は現地開催と WEB 開催のハイブリッド開催とした。教育・福祉機関向け研修会はてんかんリハビリテーションをテーマとした。第 1 回市民公開講座は、千葉ペリエでの現地開催とオンライン配信のハイブリッド開催とし「ライフステージとてんかん」をテーマとした。現地・オンライン合わせて 90 名にご参加いただき、現地で専門の医療関係者から直に話を聞けることについて高い評価を得た。12 月には地域の医療機関の関係者に、てんかんに対する知識を深め、より積極的にてんかん医療に関わっていただけるようプライマリケアを取り上げた。来年度以降、継続して同様

の企画を継続する予定である

R4 年度実績

研修区分	日付	テーマ	参加人数
教育・福祉機関向け研修会	令和4年6月11日	てんかんリハビリテーションを巡って	50
市民公開講座	令和4年10月19日	ライフステージとてんかん	90
医療関係者向け研修会	令和4年12月17日	なんとかなる?なんとかしよう!てんかんプライマリケア<ステップ1>	35
市民公開講座	令和5年2月18日	つながる・繋げるてんかん医療～地域で支えるネットワーク～	44

3) パンフレットの作成・配布

令和2年度に作成した外来患者向けパンフレット「てんかんと診断された方へ」「てんかんの外科治療について」「災害への備え」を外来に設置するほか、ホームページからPDFとしてダウンロードできる形で公開している。今後、内容のブラッシュアップも検討している。

4) 広報誌への情報提供

日本てんかん協会千葉県支部月刊誌「わかしお」への事業内容や活動現況報告の寄稿、千葉県委託事業中核地域生活支援センターいちほら福祉ネットへの情報提供などを行った。

3. 教育・研究に関する事業

1) 千葉大学医学部附属病院との連携

脳神経外科研修医向けレクチャーや脳神経外科・小児科との合同症例検討会を行っている。

2) 京都大学脳神経内科学教室との共同研究

硬膜下電極記録、脳深部電極記録の解析をテーマに共同研究を開始した。

3) 千葉県がんセンターとの共同研究

千葉県がんセンター脳神経外科・放射線画像診断部と連携し、functional MRI の新たなタスクの開発など共同研究を継続して行った。